

6. モデル統合化領域

(1) 目標

他の領域での個別過程についての研究成果を活用し、大気・海洋・陸地面を結合した気候モデルをつくる。2001年に完成予定の地球シミュレータ（実効数 T / FLOPS）を念頭に置き、その時代の最も進んだ気候モデル（水平解像度 10Km 程度）を作る。

(2) 研究課題と研究手法

水平解像度 10km オーダーに相応しい力学フレームの検討をはじめ、放射、雲、陸面水文過程など個別過程についての詳しい知識を基に、全地球モデルに組み込むのに適した新しいスキームを開発し、既存のモデルに組み込んで、その効果を調べる研究（感度実験）や既存のモデルを用いた全地球にかかわる個別現象（例えば熱帯大気季節内振動、南極周辺海洋の沈み込み等）の機構の数値実験による分析などを行う。

(3) 他の研究計画との関係と協力

次世代モデル開発に関しては、並列計算のための計算技術の開発は地球シミュレータ開発グループによってなされ、当領域はモデルの物理的側面を担当する。